

第2回 紫波町総合計画審議会

日時 令和5年12月11日(月) 午後1時30分～3時
場所 紫波町役場 3階 会議室 301～303

次 第

1 開 会

2 町長あいさつ

3 会長あいさつ

(会議成立報告)

4 諮問

5 議 事

第三次紫波町総合計画後期基本計画の素案について

(1) 概要説明

(2) 計画案の審議

6 その他

今後の予定

- ・パブリックコメント : 12月14日～1月9日
- ・第3回審議会(審議): 1月16日(火) 午前10時00分から 紫波町役場
- ・第4回審議会(答申): 1月29日(月) 午後1時30分から 紫波町役場

7 閉 会

第2回 紫波町総合計画審議会 出席者名簿

令和5年12月11日（月）午後1時30分～3時
紫波町役場 3階 会議室301～303

【委員】

（五十音順）

氏名	所属等	備考
浅沼清一	岩手中央農業協同組合 代表理事組合長	
阿部敏博	紫波町行政区長協議会 会長	
阿部久克	紫波町消防団 団長	
阿部萬太郎	農業	◎会長
阿部礼子	特定非営利活動法人紫波みらい研究所 理事長	【欠席】
太田幸市	紫波町交通指導隊 副隊長	
小川哲男	一般財団法人紫波町体育協会 会長	【欠席】
小澤由香里	紫波町食生活改善推進員協議会 会長	【欠席】
加藤博巳	一般社団法人紫波郡医師会 副会長	【欠席】
菊地圭二	特定非営利活動法人紫波ing 理事	○副会長
木戸章子	宿はこや 責任者	
近藤英一	社会福祉法人紫波町社会福祉協議会 会長	
佐々木 勉	紫波町PTA連合会 会長	
佐藤謙司	紫波町校長会 会長（西の杜小学校 校長）	
菅原和博	紫波町農林公社 森林循環アドバイザー	
高橋栄悦	一般社団法人紫波町観光交流協会 会長	
高橋哲也	南日詰大神楽保存会 事務局	【欠席】
高橋吉見	紫波町防犯隊 隊長	
橋 富雄	紫波町商工会 会長	
戸塚美奈子	虹の保育園 園長	
富岡敦子	紫波町連合婦人会 会長	
七木田吉明	紫波電設有限会社 専務	
檜山雄介	しわりり 副代表	
松田竜也	岩手農蚕株式会社 取締役部長	【欠席】
役重真喜子	岩手県立大学総合政策学部 准教授	

【紫波町】

町長	熊谷 泉
副町長	藤原博 視
生活部長	中田秀 男
産業部長	長谷川 崇
建設部長	谷地 和也
教育部長	阿部 薫之

事務局

企画総務部長	鎌田千 市
企画課長	小川 篤
企画課副課長	森川高 博

第2回紫波町総合計画審議会 会議録

1 開催日時・場所： 令和5年12月11日（月）午後1時30分～3時45分 紫波町役場3階 会議室 301～303

2 出席者： 別紙出席者名簿のとおり

3 諮問 熊谷町長から阿部会長に諮問書を提出

4 議事： 第三次紫波町総合計画後期基本計画の素案について

5 議事における委員からのご意見等（概要）

ご意見等（概要）	町の対応・回答
<ul style="list-style-type: none"> ● 第2期福祉活動計画と合わせて拝見したが、ここ4～5年は一緒に進める（方向性が一緒）と感じた。 ● 「妊娠・出産・子育てについて切れ目なく支援する」とあるが、どういう方向に進むのか、もう少し具体的だと安心する。 	<p>【健康福祉課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「乳幼児が健やかに成長する」という具体的な目標（状態）に向けて、母子健康手帳交付時の面談から出産までの各種相談や教室、出産後の訪問・相談、子育てに関する相談や支援について機会をとらえて切れ目なく行ってまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ● 夏場の異常な暑さでプールに入れない、クマ出没で親の迎えが必要（＝子どもたちだけで帰れない）など、子どもたちが今までできていたことができなくなっている。文部科学省の「第3次学校安全の推進に関する計画」をふまえて触れてもらえるとよい。 ● PTA活動をみると、（新型コロナによる活動制限が続いたため）活動をしないことの快感が強すぎて、活動をしない地域が多くなっている状態である。郷土芸能や祭りでも同じ。こうした「活動をできていない地域」が危ないのではないか。「活動しなくていいんだ」という雰囲気のある地域は、ちょっと厳しい地域になっているのではないか。 	<p>【教育総務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「第3次学校安全の推進に関する計画」をふまえてつづ、関連事業の中で取り組んでまいります。 <p>【企画課（地域活動）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域活動の必要性の見直しと担い手不足による地域の負担増について、地域を支える人材の育成と支援を実施して協働のまちづくりにより課題の解決を進めてまいります。

ご意見等（概要）	町の対応・回答
<ul style="list-style-type: none"> ● 林道がしっかり整備されているところは間伐が進んでいる。木質バイオマスの活用を進めるためには、作業機械や搬出車両の大型化に対応した林道整備が必要と感じる。 ● 全国で体育館など様々な公共施設が木造で作られるようになったが、これには紫波町の影響があると思う。紫波町は15年以上も前から木造で公共施設を作っているし、2015年にパリ協定でSDGsが採択される前の2000年から循環型まちづくりに取り組んでいるので、もっと威張って（自信を持って伝えていって）もいいと思うので、頑張ってもらいたい。 	<p>【環境課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 私有人工林の森林整備を促進するため、森林環境譲与税を活用した町独自の補助制度の策定を進めています（森林経営管理制度の推進）。その中で作業道整備に関するメニューもあり有効活用されたいと考えます。公共施設への木材活用はこれまでどおり活用を推進してまいります。 ● また、建材樹種は町産材の樹種ではまかなえないものもあるので県産材も含めた活用を推進してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ● 商店街や東西も含めて後継者不足が深刻。商工会でも様々議論するがなかなか良い案が出てこない。後継者不足の解消や空き店舗対策についてのご意見やアイデアを寄せてほしい。 	<p>【商工観光課、資産経営課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 町内企業の後継者を育成するためには、次の世代を担う子供たちに対して町内企業の魅力を伝える取り組みや、町内企業の若手人材のスキルアップを支援する取り組みが必要と思われるので、中小企業振興条例の策定と合わせ、商工会等と連携した事業を検討してまいります。 <p>また、リノベーションまちづくり事業を通して、起業家の発掘や、空き店舗をイベント等により試験的に利活用する取り組みを進めるとともに、空き店舗の残置物撤去についても適切な対応を検討してまいります。</p>

ご意見等（概要）	町の対応・回答
<ul style="list-style-type: none"> ● 商工業や農業などの基幹産業に若い人がいないことがすごく不安に感じる。（こうした担い手不足への対応は）長いスパンで考えなければならないかもしれないが、後期計画の中で目指して（対応方針を掲げて）おいても良いのではないかと。 	<p>【商工観光課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 町内企業の後継者を育成するためには、次の世代を担う子供たちに対して町内企業の魅力を伝える取り組みや、町内企業の若手人材のスキルアップを支援する取り組みが必要とされますので、中小企業振興条例の策定と合わせ、商工会等と連携した事業を検討してまいります。 <p>【農政課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 前提として、人口減少が進んでいく中で、就労者の数は圧倒的に少なくなっていくことを踏まえながら、農業については、地元の農産物への興味を集める事が第一と考えており、1-5-1の食育を通して農業の大切さを伝えていくことで、農業への就職の選択肢を作っていこうと考えております。 <p>また、2-2をとおして、農業者自身による農業の魅力を発信できる仕組みを構築していけるよう見直してまいります。</p> <p>【企画課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少対策については、「紫波町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」で具体策を掲げていますが、現状や皆さんからのご意見を参考に、人口ビジョンを見直してまいります。

ご意見等（概要）	町の対応・回答
<ul style="list-style-type: none"> ● ここ1年くらいで町内でも薬物犯罪が出てきている。 ● 町防犯隊は18名が最大数だが現在は14名の状態。あとの4名が募集をかけてもなかなか見つからない。充実した活動のためにも隊員確保に頑張っていきたい。 	<p>【消防防災課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 町内でも薬物犯罪が発生していることについて追記しました。 ● 町防犯隊の隊員確保に関しては「防犯組織の活動強化」として取り組んでまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ● 福祉などいろいろな制度の支援を受けられない(制度と制度の)狭間にいる人たちや、孤立・孤独などにも目を向けてくれるとの説明があったので、とても良いことだと思った。 	<p>【健康福祉課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ご意見を参考に進めてまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ● 商店街のお店がシャッターを下ろすと、次の日にこのお店はシャッターが上がるのかなど、非常に心配になる。町の中（地元）では話ができないが、このようなことを（自分としては）思っている。 ● 商工会長がおっしゃったように後継者の問題が一番。（商店街も）魅力をつけていかなければならないと思う。そろそろオガールのほうは一段落したと思うので、この中心部（日詰商店街）のほうにも力を注いでほしい。 ● 快適なまちづくりというキャッチフレーズがあるようなので、ぜひ一般町民にも知ってもらえるような表現で（計画を作っていたら）、実現可能になればよいと思う。 	<p>【商工観光課、資産経営課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 町内企業の後継者を育成するためには、次の世代を担う子供たちに対して町内企業の魅力を伝える取り組みや、町内企業の若手人材のスキルアップを支援する取り組みが必要と思われるので、中小企業振興条例の策定と合わせ、商工会等と連携した事業を検討してまいります。 <p>日詰商店街エリアについては、空き店舗の増加という課題がある反面、遊休不動産が市場に出る機会が乏しく、流動性に欠けるという課題が挙げられています。リノベーションまちづくり事業を通じ、イベントの実施等による空き店舗の利活用や、若手起業家の発掘・育成に引き続き取り組んでまいります。</p> <p>【企画課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 計画全体において、町民の皆さんにも読んでいただきやすく、また自分事として意識し、取り組んでいただけるよう、わかりやすい記載や表現に努めます。

ご意見等（概要）	町の対応・回答
<ul style="list-style-type: none"> ● 総合計画というのは、今まで行ってきた政策がそのまま大丈夫なのか、もっと打つべき政策があるのではないかとことを後期に向けてみんなで話し合い、盛り込んでいくのだと思う。 この計画の中で深刻な課題、あるいはチャンスともいえる課題かもしれないところを、どのように政策として答えを出していくのかということについて、ポイントでもよいので、もう少し伝われば、皆さんもいろいろ議論できるのではないかと。 課題は挙げているが、それに対するアンサーがないということにならないようにしてほしい。 実施計画でやっていくなればそれでも良いので、（委員の）皆さんからのご意見を受け止めていただきたい。 	<p>【企画課（全体的な考え方として）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 目指す姿と現状とのギャップが課題であり、その課題をどう解決していくのかが町の施策（取組）となります。 ご意見をしっかりと受け止め、総合計画では少し大きくなりでの表現になる場合がありますが、個別計画と合わせて検討してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ● （学校再編によって）小学生が増えた（クラス単位の人数は増えた）が、中学生は変わらない。二中学区ではクラブ活動も（種目によっては人数が揃わず）十分にできない状態。町の中央部はよいが東西部にどうやって人を増やすかという考え方が欲しい。 ● 東京から長岡に来た人に、「東京にいた頃は、子どもたちが集まるとゲームばかりしているのか」と尋ねたところ、「東京の子どもたちのほうが、公園など外で遊んでいる」という。東西部では（閉校により）校庭もなくなり、借りないと使えない状態なので、サッカーボールも思いっきり蹴ることができない。そういう環境になっているということも考えてほしい。 	<p>【企画課（人口減対策の方向性）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少対策については、「紫波町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」で具体策を掲げていますが、現状や皆さんからのご意見を参考に、人口ビジョンを見直してまいります。 <p>【生涯学習課（旧学校施設の使用）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 閉校した学校の校庭については、暫定利用ですが、段階的に柔軟な利用のあり方について検討してまいります。 <p>【都市計画課（公園）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 現在、具体的な公園整備の計画はありませんが、ご意見を踏まえ、今後の整備検討に当たっての参考とさせていただきます。

ご意見等（概要）	町の対応・回答
<ul style="list-style-type: none"> ● P79 で情報を活用すると書いてあるが、リアルタイムの情報しか重要視されていないように感じる。図書館に所蔵されているような映像記録などのアーカイブ情報（過去の情報）も、この情報の分野で活用されていくような表現があれば、文化についても、今の情報だけでなく、今までの紫波町の姿が未来に活用されていくのではないかと思う。 	<p>【情報交流館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 過去を知る資料の保存と活用について追記しました。
<ul style="list-style-type: none"> ● 情報化（デジタル化）が進むと、我々のような年を取った方々が不便になっていく感じがある（対応できない人が出てくる）。町民全員が“暮らし心地の良いまち”になってほしいと思うので、そうした人たちもフォローするような施策も必要ではないか。 	<p>【企画課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナの発生を契機に発展している社会のデジタル化は、暮らしに必要な情報の入手や各種手続きなどを「いつでも」「どこでも」可能にし、私たちの暮らしを便利に、豊かにするものと捉えており、町民誰もがデジタルの恩恵を受けられるように配慮しながら取組を進めてまいります。 また、必要に応じて紙媒体の活用や対面での対応なども組み合わせながら、各分野の施策取り組んでいくことが大事であると考えております。
<ul style="list-style-type: none"> ● 買い物をするにも、役場に来るにもすべてスマホがないとダメな時代になってしまうんだと感じる。（一方で、スマホを）使いたくても使いこなせない高齢者はどうすればよいのか。（こうしたことへの対応方針を）後期計画で芽出しくらいはしておいても良いのではないか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 交通指導隊でも隊員数が減ってきている。他でも組織がどんどん衰退している現状。組織が衰退するのは人が少なくなっているという以前に、人と人とのつながりが希薄になってきているのだと思う。新型コロナだけが原因ではないと思うが、地域で時間的な余裕がなくなっていると思う。そうしたことも考えながら組織を一つ一つ点検していく必要があるのではないか。 ● 紫波町は非常に便利（な立地）だからなのか、若い人たちは盛岡や花巻で仕事をするという感覚なので、紫波町に住んでいるけど紫波町の活動に参加していないというのが実態だと思う。極端な例かもしれないが、葛巻町や普代村では住民みんなが地域の活動に参加している。なので、これからは町民を巻き込んだ活動、町民の活動＝町政（町全体の活動）のような事業をやってもらいたい。 	<p>【企画課（地域活動）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の担い手の不足から従来の組織活動を行うことが難しくなっています。組織の活動目的と必要性を理解し、見直しや統廃合などを行いながら地域で活動する人材の育成と住民、民間、行政などとの協働の体制を整えてまいります。 ● 町の特性と地域に合わせた住民活動が必要であると考えます。地域の実情に合わせた事業の創出や支援を進めてまいります。

ご意見等（概要）	町の対応・回答
<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ少年団、これからどのようになっていけばよいのか。（部活動の地域移行により）地域で面倒を見ていくということは、地域で人がいなくなった時点で関わりが少なくなると、スポーツをする子どもが減っていく、というようになるようだ。そのようなことも取り上げていただきたいテーマだと感じる。教育なのか地域活動なのかはわからないが、しっかりと整理して計画を立てていくべきテーマではないか。 	<p>【学校教育課（部活動の地域移行）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ご意見を参考にしつつ取り組んでまいります。 <p>【企画課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少対策については、「紫波町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」で具体策を掲げていますが、現状や皆さんからのご意見を参考に、人口ビジョンを見直してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ● 家族農業という考え方について。日本の食料安全保障を果たすために、できるだけ国土を保全し、農地を守っていくということが政府に課された課題だと思う。国土や農地を守るという意味では大変大事な話だが、行政や政府の力で家族農業を支援しないと国土は守れないし、食料生産に支障をきたすと思う。 スマート農業や組織農業など時代に即した農業生産に切り替わっていると思うが、家族農業はだれも手を入れないような不便な土地も耕作している。言いたいのは、資料2のP27に、それを実現するために「地域ぐるみ農業の推進」という項目があるが、ぜひこの中に家族農業の支援も入れて進めていただければと思う。 農村社会を守るということは伝承文化を守っていくということ。そういう文化が失われて行かないように、この考え方（家族農業の支援）を取り入れてほしいと思う。 	<p>【農政課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 近年の生産コストの増加と農業生産物価格の低下により、水稻、果樹、野菜、畜産等それぞれの作物において、改めてその経営を見つめなおす時期に来ていると感じております。特に農業機械や施設に係る経費は高額化しており、機械のフル活用が生産コストを下げる手段としては有効であると捉えております。 水稻を例として考えると、現在当町での農地所有は1農家当たり平均2ha程度が主流ですが、岩手県高性能農業機械導入計画によれば、6条田植え機で14ha、コンバイン4条刈で15haが効率的であるとなっております。機械をベースに考えるのであれば、家族農業でも15ha程度の作付けが生産コストを考えた場合の営農規模となってきます。 果樹においては、毎分吐液量50リットルのスピードスプレーヤーで4haが効率的な営農規模となっております。
<ul style="list-style-type: none"> ● 国連でも「家族農業の10年」として進めている。日本の場合は大型農業をどんどん進め、経済効率を中心とした農業が進みすぎているのではないかという意味もあるかもしれない。町でも何か手立てが必要なのかもしれないと感じた。 	<p>所得面で考えた場合、R2年度ベースですが、水稻</p>

ご意見等（概要）	町の対応・回答
	<p>であれば 23ha、果樹 2ha、野菜（きゅうり、トマト）0.55ha、繁殖牛では 25 頭程度の規模で、年収 420 万を確保できる状態であると推測しております。</p> <p>当町は複合経営農家が多くあり、それぞれのタイミングにより労働力や機械が必要であり、小規模でも機械や施設を所有しなければならないことが、生産コストが高くなっている原因の一つであると捉えております。</p> <p>これらのことから、現在、地域ぐるみでの農業を推進することが、生産コストの抑制に有効な手段であると考えているところではありますが、家族農業についても上記の規模で営農できるよう支援について検討してまいります。</p> <p>農村社会の継続につきましては、地域ぐるみでの話し合いができる体制を整えていくことで、コミュニケーションの継続が可能となっていくと考えており、地域計画に取り組むことにより、その重要性を再認識していただけるよう支援してまいります。</p>

ご意見等（概要）	町の対応・回答
<ul style="list-style-type: none"> ● 私は紫波新聞で情報発信しているが、一番気を使っているのは「事実をちゃんと伝えよう」ということ。素案でも現状と課題が書かれてあるが、現状は何かオブラートに包んでいるのか、言いづらいのか、見えるようで見えない。現状がきちんと見えていないと、課題も出てこないだろう。現状がもう少し具体的に出てくれば、そのつながりがもっと出てくるのではないか。これから（記載内容を）大きく変えるのも大変だと思うが、現状の部分がきちんと（町民の）皆さんに伝わると良いと思う。項目があり、現状がありそのギャップを課題として解決していく、解決するためにこんなことやりますよ、そしてこんな指数で（進捗を）見ていきますよという流れだろうから、現状をどこかでももう少し具体的に出してほしいと思う。 	<p>【企画課（全体として）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 町民の皆さんに身近なこととして関心を持っていただけるよう、現状について、もう少し具体的な記載に見直してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ● 自身の宿に泊まる方で、山屋のようなところに暮らしたいという方はたくさんいる。うちにも泊まったり、実際県内の市町村を何カ所か回ったりして、最終的には雫石町に移住した人もいる。中国人でIT企業で働いている有能な人が、こういう（紫波のような）ところで暮らしたいという話もいただいたこともあるが、紫波町には相談窓口がはっきりとしていない。人口は増えているというが、それはオガール周辺など中心部のことであり、（人口減少で）深刻な東部・西部地区のようなところにこそ暮らしたいという人たちの相談に全面的に乗れるような部署を一つ設けていただければ、住居、仕事、教育などいろいろな面で相談できる。 例えば、お試しで農業をやりながら何か月か暮らしたい人を受入れるプランを組むとか。いろいろな意味でそういうことが農業の担い手不足を助けることにつながり、（それがきっかけで）気に入ったらそのまま高齢でできなくなっているような農園をそのまま引き継ぐとか。移住を希望する人たちを広く、柔らかく、試行錯誤しながら受け入れるような窓口が役場の中にあればよいいつも思っている。 	<p>【企画課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 移住相談について、町では企画課が窓口となって対応しているところですが、外国人の方々からの相談対応については、ご意見を参考に、今後の体制について検討してまいります。

ご意見等（概要）	町の対応・回答
<ul style="list-style-type: none"> ● 獣害対策は山際では本当に深刻な問題。先日NHKの番組で観たが、熊対策の先進地では、熊一体ごとにGPSをつけて、どういう動きをするかを5年くらいかけて調査し、本当に危険な熊を駆除していた。（調査によって）すべての熊が悪さをしているわけではないということがわかってくるらしい。だから、従来の対策のように場当たりの対処療法ではなく、根本的に動物の生態学から考慮するような対策が大事だと感じた。 	<p>【環境課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 城山公園へのクマの出没に対応するために、岩手大学准教授の山内貴義さんや合同会社岩手野生動物研究所の西千秋さんなどの有識者から指導を受けながら活動を行ってまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ● 四国の小さい町だが、インターネット環境を整備したら、インターネットで仕事をするような人たちがたくさん移り住むようになったところがあるようだ。紫波町ではどうすればよいか。東西部はどうなんだということを町では考えていると思うが、この素案には明確に書かれていないように感じる。 あと、地域の人口密度はどの程度が適正なのか。みんなが暮らしやすい環境とかいろいろなことを考えた場合に、どのくらい人がいればよいか、など。そうした話はなかなか出てこないが、そういう話もして欲しい。 	<p>【企画課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少対策については、「紫波町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」で具体策を掲げていますが、現状や皆さんからのご意見を参考に、人口ビジョンを見直してまいります。